休めない日本！？

4 月 29 日の「昭和の日」から始まった今年のゴールデンウィーク。5 月 2 日に有休をとった人であれば 7 連休、さらに 5 月 6 日にもう 1 日有休をとった人であれば 10 連休など、休みに恵まれた人がいた一方、有休取得が難しく、カレンダー通りにしか休めなかったという人も多かったことだろう。厚生労働省が有給休暇の取得状況について調査した「就労条件総合調査」（2015 年 10 月発表）によると、１人あたりの年次有給休暇の平均取得日数は 8.8 日、有休取得率は 47.6%にとどまっており、取得率 100%に近い欧州諸国に比べ日本企業における有休取得は極めて低いと言わざるを得ない。

労働政策研究・研修機構の調査（2015 年 7 月発表）によると、労働者が年次有給休暇を取り残してしまう理由として、「業務量が多く休んでいる余裕がないから（休むと後で自分がきつくなるから）」が 45.1%を占めトップ。以下、「職場の人に迷惑がかかるから」（41.9%）、「休みの間、代替してくれる人がいないから」（32.8%）、「病気や急用のために残しておいて結局、取り切れなかったから」（25.9%）、「上司や同僚が取らないから」（20.3%）と続き、職場環境による理由が上位を占めている。

政府は、2020 年までに有休取得率を 70%まで引き上げる目標を掲げている。現在、年 10 日以上の年次有給休暇が付与される従業員に対し、年 5 日分の有給休暇を取得させる義務を企業側に課す方向で労働基準法の改正を進めており、経団連もこれに先駆けて今年 3 月、有休消化を年 3 日程度増やすよう会員企業に対して呼びかけている。

2014 年にマーサーが発表した年間祝祭日数世界ランキングによると、日本の祝日は 15 日で第 3 位となっている。フランスやイタリアの 11 日、アメリカの 10 日、イギリスの 8 日などと比べて日本は祝日が多い。さらに今年からは 8 月 11 日が「山の日」となり、祝日は計 16 日。横並び意識が強い日本では、有給休暇よりも周囲に気兼ねなく休める祝日が多い方が効果的なのかも知れない。あるいは、“日にち”に込められた想いや意味合いは薄れるかも知れないが、連続休暇を消費喚起の起爆剤とすべく、「ハッピーマンデー制度」が適用される祝日を拡大することも一考ではないだろうか。

（TKTK）

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

©TEIKOKU DATABANK, LTD.